

チョコ停ゼロ・故障ゼロ、品質確保をかなえる

設備保全システムの 考え方とつくり方

—保全体制・保全計画のつくり方から指標管理、故障の源流対策まで

大阪会場 **日時** 2019年4月22日(月) 10:00~17:00
(9:30受付開始、休憩12:30~13:30)

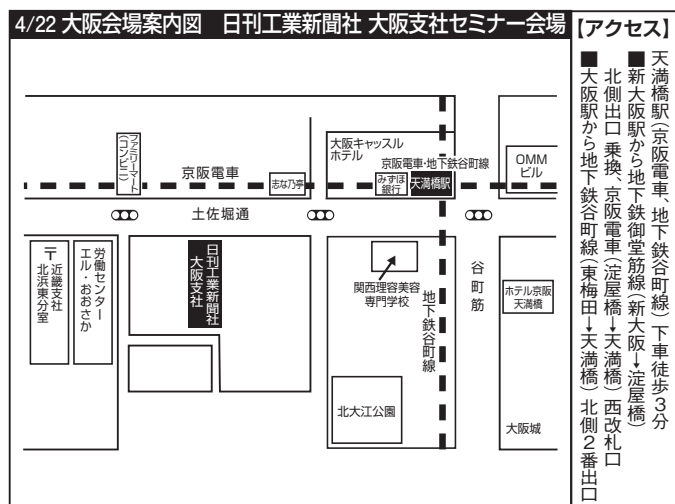
会場 日刊工業新聞社 大阪支社 セミナー会場
大阪市中央区北浜東 2-16

東京会場 **日時** 2019年6月3日(月) 10:00~17:00
(9:30受付開始、休憩12:30~13:30)

会場 日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム
東京都中央区日本橋小網町 14-1 (住生日本橋小網町ビル)

受講料 43,200円(資料含む、消費税込)
*同一会場にて同時複数人数お申し込みの場合、2人目より10%割引いたします(38,880円)

主催 日刊工業新聞社



●申込方法 申込書を郵送又はFAXにて下記にお申し込みください。ホームページからもお申し込みできます。(http://corp.nikkan.co.jp/seminars/) 受講料は銀行振込で受講票及び請求書が到着次第、開催日1週間前までにお支払いください。なお、キャンセルにつきましては開催日1週間前までの受付とさせていただきます。1週間前までにご連絡がない場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。振込手数料は貴社でご負担願います。
 ※会場には受講者用の駐車場がありません。必ず最寄りの公共交通機関でご来場ください。※講義の録音・録画は固くお断りいたします。

●申込先 日刊工業新聞社 総合事業局 教育事業部 技術セミナー係
 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル) TEL 03 (5644) 7222 FAX 03 (5644) 7215
 e-mail: j-seminar@media.nikkan.co.jp

受講申込書		設備保全システム		※○印を記入してください (4/22 大阪) (6/3 東京)		お申し込みは FAX 03-5644-7215	
■受講料: 43,200円(資料含む、消費税込) *同一会場にて同時複数人数お申し込みの場合2人目から38,880円		※振込手数料は貴社にてご負担ください。					
会社名	フリガナ	業種					
氏名	フリガナ	部署・役職	TEL				
所在地	〒	FAX					
E-mail:		※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は チェックをしてください。 <input type="checkbox"/>					

開催主旨

製品のさらなる多機能化・高精度化が進展する中、顧客からの品質保証への要求はより一層高くなっています。品質確保は、**設備の状態の良し悪し**によって大きく左右されることは言うまでもなく、その信頼性向上に直結する**設備保全システムの構築**が重要性を増しています。

設備の信頼性向上は、**既存設備の信頼性を改善・維持する活動**であり、点検や修理復元、再発防止を実践する**地道な活動**と、故障や劣化の原因を突きつめ、かつ効率的な保全体制を実現する**戦略的な活動**が二本柱となります。

そこで、本講座は**故障ゼロへのアプローチ**とその実践、**計画保全の基本的な考え方**、**保全体制づくり**の具体的な活動内容を解説。併せて、故障ゼロ化のための**源流対策としての解析法**を紹介し、設備の信頼性向上につなげるための方策を習得します。

講師

(株)アステックコンサルティング コンサルティング本部 コンサルタント

川津 武史 氏

■職歴

大手ゴム製品メーカーにおいて生産技術、設備開発、製造現場改善の実務に従事し、同社海外工場での新規事業立ち上げプロジェクトの中心メンバーとして多大な成果を上げた。その後、(株)アステックコンサルティングに入社。状況を冷静に判断し、粘り強く問題に取り組む誠意あふれる指導は、真に現場を変えるコンサルタントとして高い評価を得ている。

■コンサルティングテーマ

- ・ 全社最適化収益改善
- ・ 製造部門の生産性向上、リードタイム短縮、在庫削減
- ・ 設備稼働率向上
- ・ 品質改善支援
- ・ 製造原価低減

■指導企業 及び コンサルティング内容

- ・ 電子機器メーカー ネットワーク改善による生産性向上、納期遅れ撲滅
- ・ 電子部品メーカー 受注から出荷までのトータルリードタイム短縮、在庫削減
- ・ 金属加工メーカー 現場改善、品質改善によるクレーム低減と生産性向上
- ・ 銅板、銅管メーカー 製造直接部門の労働生産性向上とリードタイム短縮 等



プログラム

1. 設備保全の目的と基礎知識

- 1-1 設備管理・機械保全の必要性
- 1-2 コストミニマムを考える
- 1-3 設備保全における問題点の把握

2. モノの流れを止めない視点を持つ

- 2-1 流すスピードを決める
- 2-2 現場を見て流れが見える工夫
- 2-3 フロー化することのメリット

3. 設備を分類して保全方法を決める

- 3-1 モノの流れを止めない設備保全
- 3-2 保全活動を使い分ける
- 3-3 ボトルネック工程を把握する

4. 予防保全活動の進め方

- 4-1 チョコ停の種類と時間を把握する
- 4-2 4M変化点を捉える
- 4-3 チョコ停改善のステップ

5. 事後保全活動の進め方

- 5-1 保全時間の内訳
- 5-2 原因追究で判断時間を削減する
- 5-2 原因追究で判断時間を削減する

6. 設備保全体制確立のポイント

- 6-1 横展開の仕組みをつくる
- 6-2 保全業務の分類と業務分担
- 6-3 予備品管理の進め方